

市政一新！

秦野市役所 32年奉職
コロナ禍で苦しむ市民を救う政策がなあざり
で身内に甘く、改革の意欲もない現市政に憤り。
政治に身を捧げる決意を固め、本年4月退職。

■ 1967年1月23日鶴巻生まれ
■ 大根小・大根中・日本大学藤沢高校・日本大学法学部
政治経済学科卒業・早稲田大学大学院公共経営研究科修士卒業



さとう伸一 54才

発行者 市民がつくるはだの未来
代表 佐藤伸一
秦野市鶴巻南1-9-16
TEL 080-2052-9205
ホームページはちらから



さとう伸一通信 No.4 合併号 No.5

コロナ禍緊急時に最優先するべきことは何か！

現場の心労はいかばかりか

中学校給食が始まることは大変喜ばしいことです。しかしながら今この時期なのか？多くの先生方から困惑の声が上がっています。現場の先生方は感染拡大防止と給食を同時に行うことを強いられ、生徒たちは「黙食」を強いられる。現場の苦労、心労はいかばかりでしょうか。生徒達が楽しく語り合いながら食べられる、安全安心な時期に延期すべきだったと思います。

緊急の課題は山積みだったが・・・

本年8月27日、市内で147名もの感染者の方が自宅療養を余儀なくされました。また経済的、精神的に追い詰められた方が増える中、市はコロナ禍で苦しむ市民を救済する独自対策をほとんどやりませんでした。他の市町村と比較すると秦野市がコロナ禍で苦しむ市民をいかに冷遇していたかがよくわかります。公約実現も確かに大事です。

しかし、緊急事態ではまず、「生きるか死ぬかの苦しみに喘ぐ人々を救う」ための政策を最優先すべきです。

第6波はいつ起きてもおかしくありません。自宅待機者を極力出さないよう、「宿泊療養施設」を確保するなど、市民と医療現場が安心できる体制を整えておくことが政治の責任です。



さとしんチャンネル
YouTube

オフィシャル
LINE

情報更新中！ぜひ、各種SNSもご覧ください！

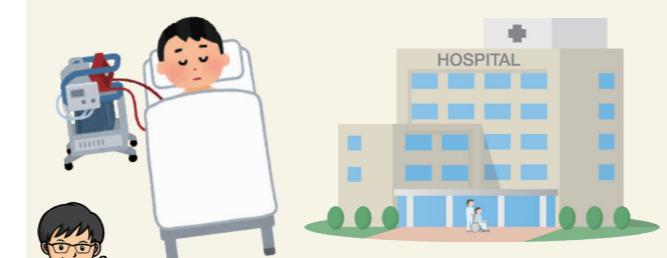
「政治イベントに向けたアピール」などと言わぬよう、現場の声に耳を傾けるべき



新たに建設された学校給食センター



入院できない自宅療養者の苦境はいかばかりだったか。為政者はまず「自分ごと」としてとらえなければなりません！



市民が安心できる体制を！

日々Twitterも更新中！



これでいいのか!? コロナ禍での緊急対策

中井町 独自の緊急対策（一部）

- 1人10万円の子育て応援臨時特別定額給付金
 - 高校生大学生などへ支援給付金
 - 避難所の感染症対策物品などの整備
 - 感染症対策に必要な物品購入費を助成
 - 中小企業キャッシュレス決済補助金（導入4万円）
 - 公民館をテレワークスペースとして解放 他
- ※財源の一部は「身を切る改革」で捻出

伊勢原市 独自の緊急対策（一部）

- ひとり親家庭等へ臨時特別給付金（第1子4万円）
- 準要保護世帯に対する支援
- 伊勢原市感染症拡大防止協力金（10万円上乗せ）
- 感染症予防対策備品整備
- 社会福祉施設の運営支援 他

平塚市 独自の緊急対策（一部）

- ひとり親家庭への給付金（3万円）
- 保育園小学校給食費無料（9月まで）
- 準要保護者へ給食費相当額支給
- 保育園等に対する感染防止支援
- 学校での感染防止施策
- 福祉施設で働く職員の感染防止対策 他

トップから率先して身を削り、行政改革を徹底的に行い、生み出された財源を市民に還元すべきです！



ウェブサイトはちら ▼

さとう伸一 秦野

今すぐ検索

